



集団生活と不登校について

3年 C 組 16 番 斉藤 皓香



1. はじめに

少子化が進み子どもの数が減っている中で、不登校児童の数は年々増加傾向にあり、問題になっている。不登校の原因の中の一つに「学校生活」があげられる。私はその中でもさらに「集団生活に馴染めず不登校になる」という原因について調査し、学校側が集団生活に馴染めない子どもに対してできることはないのか考えた。

2. 現状と課題

集団生活に馴染むことが苦手な子どもがいた場合、その苦手を一人で克服するのは難しいため、周りの人がサポートしていく必要がある。なので、少しでもサポートしやすくなるような具体的な取り組みを考えていかなければならない。

3. 先行研究

文部科学省や不登校サポートナビによると、学校生活に起因する不登校の原因には次のようなものがある。

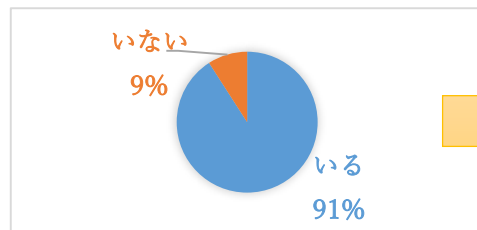
表1 学校生活に起因する不登校の原因

いじめ	集団生活が苦手	入学、転編入学、進級時の不適応
人間関係の問題	学業不振	クラブ、部活動等の問題

6. 研究の成果・分析

33件の保育園・幼稚園に問い合わせた結果

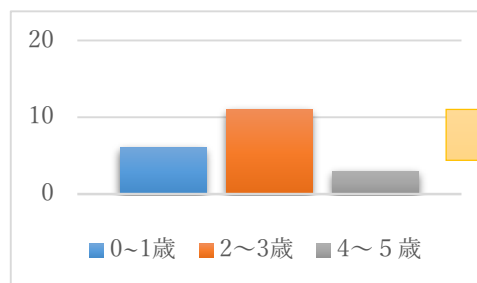
図1.①の回答 いる→30件(91%) いない→3件(9%)



いると答えた園は約9割。
このことから保育園や幼稚園から集団生活に馴染めない子どもがいることがわかる！

図2.②の回答

0～1歳から→5件 2～3歳から→11件 4～5歳から→1件



2～3歳と答えた園が最も多かった。
2～3歳からコミュニケーションをとるようになることが理由だと考えられる。

7. 考察

- ・上の黄色い部分で示したような「子ども一人一人のことを良く知り、向き合いサポートする」取り組みは学校でも応用できると感じた。
- ・学校でも、個人面談の機会を増やし生徒とコミュニケーションをとる時間を設けたり、新学期には生徒に自己紹介カードを作成してもらい、教師が生徒がどんな子なのか知れるようにするなどの取り組みを行えば、集団生活に馴染めない子どもがいた場合にサポートできるのではないかと考えた。

4. リサーチクエッション・仮説

- ・集団生活に馴染めなくなる子どもは保育園や幼稚園のころから出てくるのではないか。
- ・保育園や幼稚園で集団生活に馴染めない子どもがいた場合に行っていることを調査すると、学校でもどんな取り組みをすればいいのかわかる。

5. 研究方法

- ・保育園や幼稚園に電話取材をし、集団生活に馴染めない子どもがいるのか聞く。質問内容は次の5つ↓

- ① 集団生活に馴染めていない子どもはいるか？
- ② 何歳ごろから馴染めない様子が見られるか？
- ③ 馴染めていない子どもの性格や言動に特徴はあるか？
- ④ 馴染めていない子どもの原因として考えられることはなにか？
- ⑤ 馴染めていない子どもに対して行っていることや気を付けていることはあるか？

POINT！

- ・取材を基に、保育園や幼稚園から集団生活に馴染めない子どもがいるのか、その子にどんな取り組みを行っているのかなどのデータをまとめる。



- ③ 人見知り、言葉で自分の意思を伝えられない、周りに興味がない、発達障害などが挙げられた。

- ④ 性格(12件)、周りの環境(10件)、障害(10件)が多かった。その他にも経験不足、人見知り、年齢によるものなどが挙げられた。

- ⑤ 子どもの一人一人の好き嫌いや得意不得意を知る
一人一人の発達に合わせた保育を行う

- ・親との連携をとる
- ・やって楽しかったという経験をさせる
- ・保育士が関わり集団での遊びの楽しさを伝え、興味を持ってもらう
- ・無理をさせない程度に誘いかける
- ・理解しやすい言葉や絵を使いコミュニケーションをとる

などが挙げられた。



8. まとめ

集団生活に馴染むことは一人の力では限界があるため、今回の研究でも分かった通り、学校の先生を初めとした周りのサポートが重要になってくるのではないかと感じた。私自身も様々な悩みを抱えた子ども一人一人と向き合い寄り添ってサポートできるような養護教諭になりたいと思った。今回は一つの原因しか研究できなかったが、今後機会があれば他の原因についても詳しく研究したいと思った。

9. 参考文献、協力者

参考文献：2021年5月18日参 文部科学省(mext.go.jp), gooddo(gooddo.jp), 不登校サポートナビ(futoukou-navi.com)

協力者：滝川市の保育園・幼稚園6件、砂川市の保育園・幼稚園4件、新十津川町の幼稚園1件、深川市の保育園2件、旭川市の保育園・幼稚園20件